

1. 内外政

- ・12日～14日、キシナウにて、ノルディック・バルティック8 (NB8)加盟国及びモルドバの議会議長会議が開催。
- ・12日、ロゴジン露副首相は、過去の事例に鑑みれば、EU加盟にはNATO加盟が必須であり、モルドバがEUとの間の連合協定に調印すれば、同国の中立の地位が失われ、ロシアも関係を見直さざるを得なくなる旨発言。
- ・13日、ファン・ロンパイ欧州理事会議長は、EUモルドバ連合協定の調印は、6月27日を予定している旨発言。
- ・13日、ブラシュ駐モルドバOSCE大使は、モルドバ政府は沿ドニエストルの住民のためにロシア語の地位を保証するなどの提案をすべき、またガガウズ自治区の住民投票は違法であるが、中央政府がガガウズ問題に注意を払うのは有益である旨発言。
- ・13日、ロゴジン露副首相は、ロシアはモルドバにおける連邦制導入の案を2003年に一度提案したが、ヴォロニン共産党党首(当時大統領)が調印直前で拒否した、右の屈辱をロシアは決して忘れない旨発言。
- ・14日、レアンカ首相は、トゥスク・ポーランド首相と会談。トゥスク首相は、ポーランドは引き続きモルドバの欧州統合における弁護人の役割を担う旨発言。
- ・14日、バセスク・ルーマニア大統領は、ルーマニアとモルドバの統合は、ルーマニアでは75-80%の国民が支持し

ているが、モルドバでは20%のみであり、ルーマニアは右の数値を上げる努力をする必要がある旨発言。

- ・14日、ロゴジン露副首相は、ガガウズのワインはすでにロシア市場へ流通し始めた旨発言。
- ・15日、レアンカ首相は、バローゾ欧州委員会委員長と会談。バローゾ委員長は、6月27日に調印の予定されている連合協定に関し、右がEUモルドバ関係の最終目的ではない旨発言。
- ・16日、フィラト首相は、モルドバ国内におけるロシア工作員の活動を明るみに出す必要がある旨発言。

2. 経済

- ・16日、国家統計局は、2014年第1四半期のモルドバの輸出額が対前年同期比2.8%減の5億7,310万ドル、輸入額が同2.0%減の12億1,830万ドルであった旨発表。また、同局はロシアへの輸出が同38%減の1億1,370万米ドルとなり、モルドバ輸出の中のロシアの割合は31.1%から19.8%に減少した旨発表。

3. 防衛

- ・12日、レアンカ首相は、ヴァーシュボウNATO事務次長と会談、ウクライナ情勢のモルドバへの影響、モルドバ・NATO間の今後の協力等について議論。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)